

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

【5.01】 【5.02】 【5.03】 【5.04】

他大学からの受験生や社会人学生の受験を容易にするため、大学院の入試要項をインターネットでダウンロード可能にした。また、2006年度入試より従来の予備選考を改め推薦入試とし、外部に見える形で募集要項を明文化したが、今のところ成果はあがっていない。受験者の推移を見ながら、さらなる対策を模索していくことが必要である。海外の大学を卒業した日本国籍の学生の利便性については、計画を1年前倒しして2005年度より大学院特別学生（外国大学卒業者）枠を設定した（2005年度1名入学）。

優秀な学生確保のため2004年度よりベーツ奨学金を給付しているが、2006年度の場合、博士課程前期課程および後期課程合わせて96名が学費の半額相当額を支給するベーツ第1種支給奨学金に出願し、21名が採用となった。大学院の広報活動としては、2006年6月に大学院入学希望者を対象にオープンキャンパスを開催し、OBによる講演と個別相談を実施した。

ところで、現在就職状況はかなりよく、学部生で大手企業に比較的容易に採用されてしまうため、大学院への入学者が少し減っている。これは喜ばしいことではあるが、大学院として優秀な学生確保という面では、問題点でもある。

【5.0.6】

2005年度に「飛び入学」制度を利用して修士課程生命科学専攻に1名入学したが、修士号を取得して2006年度に博士課程後期課程に進学しており、「飛び入学」制度は優秀な学生確保のために機能していると考えられる。理工学部物理学科数学専攻では、2006年度入学生より早期卒業制度を導入し、3年卒業して大学院受験資格を得られるようにした。

【5.0.11】

定員の管理状況に関しては、情報科学専攻新設に平行して2006年度から各学科の定員変更を行ったが、1年目の2006年度は大幅な定員オーバーとなった。2007年度には是正に努め、博士課程前期課程は全体ではほぼ定員通りとなった。外部評価でも指摘のあった後期課程の定員割れ状態は改善していない。引き続き後期課程の学生確保に向けた努力が必要である。外国人学生は2006年度前期課程1名、2007年度後期課程2名、社会人学生は後期課程に2006年度、2007年度各1名を受け入れた。

学内第三者評価

博士課程前期課程については、所要数の学生数の確保ができており、多様な学生の受け入れを可能にするための努力がされていることなどは評価できる。認証評価でも指摘されている博士課程後期課程の学生の確保は十分に達成されていない。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・後期課程の学生の増加のためには、就職先の確保に関して総合的な対策が必要と考えられる。